

モートンイトトンボ

Mortonagrion selenion (Ris)

トンボ目イトトンボ科

石川県カテゴリー

準絶滅危惧

国カテゴリー

準絶滅危惧

選定理由

以前は県内の平地や丘陵の浅い池沼、水田などに生息していたが、近年は激減し、まれにしか見られない。

形態

腹長17~24mm、後翅長11~16mmの小さいイトトンボ。成熟オスは体の前半が黄緑の地に黒紋、後半は橙赤色である。未熟なメスは橙色で、成熟すると緑化する。

国内分布

北海道南端~九州南部。

県内分布

小松市那谷、金沢市（夕日寺、榎尾）、七尾市能登島町須首など。

生態

浅い湿原の水たまりに育ち、初夏に丈の低い抽水植物の間などで活動しているが、目立たない。

生息地の条件

丈の低い抽水植物の豊かな浅い水たまりや沼地。近年は一部の湿地化した休耕田で発見される。

生存の危機

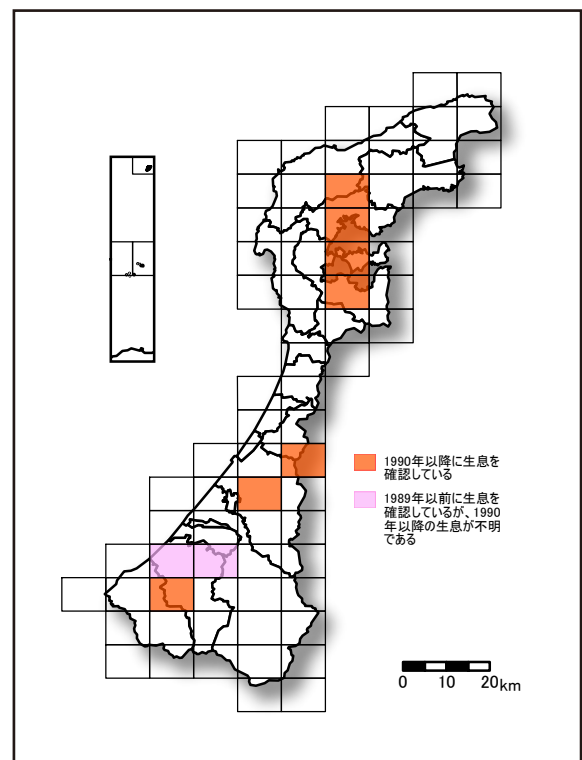
平野の水田地帯では乾田化や農薬の使用で絶滅し、丘陵間の休耕田は放棄されて乾燥し、草原となって生息地が消失する傾向にある。（A, B, C）

参考文献

武藤 明 2006. 石川県の蜻蛉目. とっくりばち, (74) : 7-19.



写真提供者: 西原昇吾



県内の分布